

国指定の伝統工芸品へ

秩父銘仙こぼれ話

秩父夜祭が、なぜ、師走の寒い中で行われるのでしょうか？

冬の祭りは、札幌雪まつり、横浜かまくらなどのように観光のために新しく企画されたものです。通常、伝統的な笠鉾・屋台の曳き回しや、神輿は夏か秋祭りのもので冬に曳山は行われません。

秩父人なら知っている人は多いと思いますが、それは絹の生産サイクルに合わせたものなのです。江戸時代、12月に秩父神社（妙見さま）に絹の市が立ち、江戸、上方から絹問屋、仲買人が集まりま

す。その人々をもてなすために、屋台で歌舞伎を演じ、笠鉾・屋台の曳き回しを行ったというのが冬の祭りの始まりになります。現在、秩父市では「おもてなし秩父」のキャンペーンが盛んですが、実は、江戸時代から「おもてなし」の気持ちは続いていたという

ことで祭りの歴史を感じます。国の伝統的工芸品認定の資料作りで、祭りに関する興味深い古文書を見つけました。松平定信の「寛政の改革」で、秩父代官から、祭り割役の松本家、高野家に祭り自粛、屋台曳き回し禁止の通告が出ました。「夜祭をやめろ！」という理不尽な命に対し、翌年、町方から、屋台再興願

いが秩父代官に提出されますが、却下されます。寛政12年（1800年）から、秩父神社と秩父の町方は再三にわたり妙見祭礼の屋台、子供歌舞伎の免許願を代官に提出しますが、すべて不許可を申し伝えられます。当時、幕府の命に異を唱えることはかなり勇気が必要だったはず

です。秩父の訴えはなんと10年間も続けられました。祭りに対する熱い思いは今も昔も同じです。

秩父の町方は絹市への経済的影響を訴えることで、10年目によく屋台曳き回しが再興されました。

秩父中が喜びに沸き立ち、新たに行司24人を定め、忍藩城代を祭りに迎えるための準備を進める喜々とした様子が、秩父松本家と秩父神社宮司の蘭田家の記録に残されています。絹市のもてなしから始まった夜祭は、今も秩父の心のよりどころになっています。埼玉産業技術総合センター

製品開発担当 影山和則



写真 蘭田家御用日記(秩父神社蔵) 忍藩秩父領松本家御用日記(秩父市立図書館蔵)

男女共同参画情報



市民生活課 ☎25-5200
✉seikatsu@city.chichibu.lg.jp

防災に男女共同参画の視点を

過去の災害時、防災・復興担当のメンバーが男性中心だったことで、女性のニーズが反映されず、女性の抱える問題が浮き彫りになりました。災害時に、女性の意見がさまざまな場面で反映されるよう、防災への取り組みに女性の参加が不可欠です。日頃から男女が対等な立場で尊重・協力し合うことが安心・安全なまちづくりの第一歩となります。

防災ピクニックが子どもを守る！

東日本大震災の被災女性の声を反映させ誕生した、NPO法人マブラグ富川万美さんによる防災講座「アクティブ防災ピクニック」を開催します。今回は、小さなお子さん（小学生以下）がいるご家庭を対象に、避難生活を送ることになった場合を想定して、避難グッズの試用や、秩父市で備蓄している非常食と同じものを試食します。

とき 11月21日(土)午前10時30分
〜正午(雨天中止、参加無料)

ところ 羊山公園
定員 15組

申込 10月13日(火)から市民生活課(☎25-5200)へ
※定員になり次第締め切り

女性のための再就職セミナー開催

「もう一度働きたい」「何か始めたい」という女性を応援します。専門のキャリアカウンセラーがあなたのチャレンジや再就職活動をサポートします。

とき 11月20日(金)午後1時30分〜3時(参加無料)

ところ 歴史文化伝承館2階和室
テーマ 『子育てママ対象』就職に向けた準備をしよう

育児などが一段落し、「さあ働こう」と思っても何から始めたらいいか迷うものです。就職に向けた一歩を踏み出すために何から始めるかを考えます。

内容 育児や家事と仕事を両立するための課題の整理、自分らしい働き方、今から準備できること
対象 県内在住の再就職を希望する女性

定員 10人(子ども同伴可)

※雇用保険受給者で、ご希望の方には、受講証明書を発行します。

申込 10月13日(火)から市民生活課(☎25-5200)へ
※定員になり次第締め切り